

---

雨

遊崎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

雨

### 【Nコード】

N0317L

### 【作者名】

遊崎

### 【あらすじ】

辛くても、前に進まなければいけない時がある。

悲しくても、顔をあげて、歩きださなければいけない。

雨があがったら。

そう決めて、私は進む。

梅雨。

雨が降る。

それは、甘くはない温い温度でわたしを浸食してゆく。

不快程ではないけれど決して愉快ではない。

言わずと知れた明快なことだけれど。

あなたが好きだった髪をも雨は濡らしてゆく。

侵されてゆく。

雨が私の記憶を奪っているような感覚、そんなことは有り得ないのに。

少しずつ鮮明さを欠いてゆく記憶、私たちは失わなければ得ることが出来ない、それは定められたこと。

子供は清んだ心を削られ、段々大人になる。

大人になってからそれを後悔し、深い悲しみに心をえぐられる。

そして若さを失い体は朽ちてゆき、最期を迎える。

それが理不尽なこの世の摂理。

抗おうと抗わまいと、その圧倒的な力に私たちは傷をつけることすらできない。

得るものが大きくとも小さくとも、犠牲は必ず必要で、今この時にも私たちは絶えず何かを失い、命を削られている。

失うものが無くなったとき、削る命が無くなったとき、私は終わる。

この世界に生まれ落ちた時から、どんな道を歩もうとそこが最終地点。

誰しも選ぶことは出来ない、決定的な死。

死ぬために生きている。

死ねるから生きている。

理不尽な、と言いかもしれない。

しかし、私はこれが一番いいのだろうと思う。

ずるずると生き続け、感情すら削り取られ、醜態を晒す。

醜く種を繁栄させ、世界を破壊する。

それなら。

それなら、短い命でもそれを全うし、泣き、笑い、怒り、友を作り  
恋人を愛し家庭を築き…

愛した人に看取られて逝く。

とても幸せなことではないだろうか。

私たちは恵まれているから、ちっぽけな幸せに麻痺している。

しかし、振り返って見れば、日々の何気ない生活が幸せなのか、わ

かるだろう。

或は失つてからそれに気付くのだろう。

形あるものはいつか失われる。

だからこそ美しいと言えるのではないだろうか。

頬を濡らす雨が止んだ。

空を見上げる。

あなたに、会いに行こう。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0317/>

---

雨

2011年10月6日17時35分発行